



工場環境保全対策（環境リスク対策）

環境保全に対するあらゆるリスクを低減する努力。

富士通グループでは、工場、および工場周辺の環境保全に対するリスクを低減するため、土壌・地下水の浄化、ダイオキシンや環境ホルモンの排出削減、オゾン層破壊物質の全廃などの取り組みを推進中です。製造活動と地球環境の調和をめざし、今後もあらゆる努力を惜しみません。

また、2001年度も、環境に関する法律違反、訴訟、事故などはありませんでした。

土壌・地下水への取り組み

敷地内の一部の土壌で揮発性有機化合物が環境基準値を上回った富士通および関係会社（前年と同じ事業所）では、浄化対策を継続しています。

建屋解体をした社内3事業所および解体予定がある1事業所では、解体後の敷地および解体予定の敷地について条例と社内規定（土壌・地下水調査規定）に基づく土壌調査を実施し、土壌汚染の有無を確認しました。このうち1事業所では、土壌浄化処理を実施中であり、条例に基づいて行った調査は、知事に対しその結果の届出を行っています。工場調査に際しては、「土壌汚染対策法案^{*1}」を念頭に置き、汚染の含有量の要措置レベルでの評価を行っています。

この他、建屋解体を実施する場合には、建屋の床スラブなどの汚染を調査し、汚染の有無を明確にして環境への拡散防止に努めています。



浄化設備（富士通川崎工場）

ダイオキシンへの取り組み

富士通グループ全体（焼却施設を保有していた富士通5工場、関係会社10社）で焼却施設の使用を廃止し、ダイオキシンの発生防止に取り組んでいます。このうち富士通沼津工場では、厚生省（当時）通達「廃棄物焼却施設解体工事におけるダイオキシン類^{*2}による健康障害防止について（緊急対策）」（平成12年9月）に基づき、焼却施設の解体を2001年3月に完了しています。



焼却施設煙突内部解体（富士通沼津工場）

オゾン層破壊物質の全廃

製造工程におけるオゾン層破壊物質については、使用全廃を完了しています。空調設備（冷凍機）に使用されている冷媒用フロンについては、漏洩対策を行うとともに、設備の更新時に非フロン系への切り替えを進めています。

オゾン層破壊物質全廃実績

オゾン層破壊物質	全廃時期
洗浄用フロン（CFC-113, CFC-115）	1992年末
四塩化炭素	1992年末
1,1,1-トリクロロエタン	1994年10月末
代替フロン（HCFC）	1999年末

環境関連設備の維持管理状況調査

富士通および関係会社の製造工場、研究・開発拠点に対して、製造設備を含む環境設備の維持管理状況および手法について、独自基準による調査を2000年度より実施しています。これにより、事故の未然防止、工場の安定操業および維持管理レベルの向上・改善など、さらなる施設維持管理の向上に努めます。

評価基準概要

- ・ 環境設備の管理状況の報告体制
- ・ 各設備の概要(能力、処理システム)
- ・ 設備運用管理状況(日常管理、メンテナンス、緊急対策など)
- ・ 老朽化対策(老朽度チェック、更新計画など)
- ・ 環境リスク調査・対策状況
- ・ 廃棄物・省エネルギー対策状況

期待される効果

- ・ 事故未然防止
- ・ 工場安定操業
- ・ 維持管理レベルの向上・改善
- ・ 各社の環境施設管理担当者との意見・情報交換

2001年度実績

富士通施設マネジメント診断 4事業所
国内関係会社 3社

ペーパーレスへの取り組み

ネットワークの利用促進やマニュアルの電子化などによる、紙の削減にも取り組んでいます。2001年は、約5,000万枚の使用を削減しました。

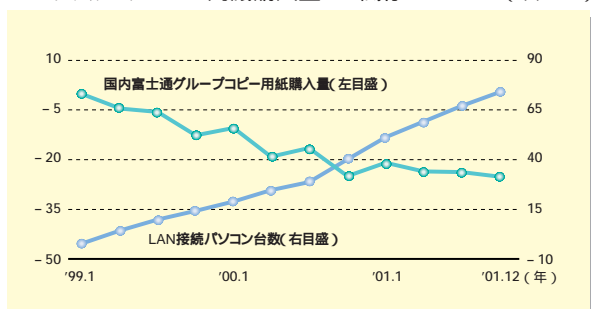
ペーパーレス実績枚数(A4換算:推定) (単位:万枚)

2000年	75,000
2001年	70,000
削減量	5,000

富士通・国内関係会社

社内設置のパソコン台数とコピー用紙購入量との関係を調査し、パソコンの設置台数が増加すると購入量が減少する傾向をつかみました。これは社内事務手続きのシステム化と、社内文書の電子化によるものと考えます。今後は営業活動の文書についても電子化を推進し、紙の使用量を削減していきます。

LANシステムとコピー用紙購入量との関係 (単位:%)



eco.fujitsu.com/info/eco20010808.html

環境ホルモンへの取り組み

外因性内分泌かく乱作用を有すると疑われる化学物質(65物質群)いわゆる環境ホルモンに対して、今後の削減活動のために社内およびグループ各社の製造工場、研究・開発拠点の年間使用量と使用用途の把握を行っています。富士通グループでは、たとえ微量であっても、環境ホルモンの対象物質を使用するすべての工場、関係会社に対して使用量の管理を行っています。2001年度のグループでの使用量は約90,613kgとなりました。また、富士通単独では約183.1kgとなり、2000年度比で11.4%減少しました。

外因性内分泌かく乱化学物質の使用状況(富士通グループ2001年度)

物質名	物質番号*	使用量(kg)	主な用途
ビスフェノールA	37	83469.3	樹脂原料
フタル酸ジ-n-ブチル	40	6589.2	成形助剤
アルキルフェノール(C5からC9) ノニルフェノール、 4-オクチルフェノール	36	534.1	塗装部品の脱脂液
フタル酸-2-エチルヘキシル	38	20.2	電子部品の固定用接着剤
ペルメトリン	59	0.4	ダニ駆除用殺虫剤
合計		90613.1	

外因性内分泌かく乱化学物質の使用状況(富士通単独2001年度)

物質名	物質番号*	使用量(kg)	主な用途
アルキルフェノール(C5からC9) ノニルフェノール、 4-オクチルフェノール	36	91.5	塗装部品の脱脂液
フタル酸ジ-n-ブチル	40	73.0	試料作成の接着
フタル酸-2-エチルヘキシル	38	17.1	電子部品の固定用接着剤
ビスフェノールA	37	1.6	樹脂原料
合計		183.1	

* 本収支結果は富士通(工場・事業所)11事業所、国内関係会社26社、海外関係会社4社を集計したものです。

* 本使用状況はグループおよび富士通単独におけるすべての使用物質を集計したものです。

* 環境省で発表している「環境ホルモン戦略計画SPEED'98」の物質番号

水質、大気、騒音・振動への対応

2001年度の自主管理基準値を超えた件数は、富士通グループで19件、富士通で5件でした。法律・条例には違反しておりません。

主な対応状況

自主管理基準異常内容

基準値異常内容	対策内容
集塵機より騒音が発生 (58dB 自主基準55dB)	遮音壁を設置
ふっ素の自主管理基準値超過	新規除去設備を追加
ノルマルヘキサン抽出物含有量の超過	食堂グリストラップの点検・作業の実施と手順書の規格化。